東京都退職校長会
会報

発行所　東京都退職校長会　〒113-0034　文京区湯島4-12-3　日公連鈴木ビル５Ｆ
発行者　多田　丈夫　電話　03－5814－5615
東京都退職校長会ホームページ　http://www15.ocn.ne.jp/~totaikou/

いきいき人生　豊かな心で
―活動に参加し、心を通わせ、絆を深めよう―

東京都退職校長会　副会長　黒田　貞夫

○三つの輪から

東京都退職校長会の記章には、本会の目的である親睦と互助・生涯学習の推進・教育支援活動を表す三つの輪が描かれている。

七枚のイチョウは、会員が園長・校長の職にあった校種と都教委で、中心の絆がその連携を表現している。この文は、現役である新会員候補や入会希望者に説明用としているものである。

○いきいき人生、豊かな心を

本会では、「活動に参加し、心を通わせ、絆を強めよう」というスローガンで、様々な実践を通して迫る取組みを行っている。

（1）教育専門職の経験を生かして活動する例

・「都教育庁　採用前実践的指導力養成講座事業」

専門委員会が計画し、運営している。学校への引率や指導助言は、本会員二名が当たる。延べ八百名を超える。

専門教科担当と組織運営のベテランの調和が特色である。

・「都教育庁　人材バンク事業」

様々な分野の外部人材の研修を行い、その専門性を生かし、学校の教育力を高める。

（2）他支部会員との親睦交流

・「総会後の懇親会や新年会」

いつもの親しい会員との深まる会話も良し。なれど、初対面の会員との懇談も新鮮なものである。新しい広がりも大人の時間で、素敵である。

・「同好の仲間との粋な時間」

年来の趣味を深めたり、新しい特技に挑戦したり、精神活性化でワクワク感、愈々（いよいよ）、増大。

（3）組織運営で身に付ける事務処理能力の充実感

・各支部の活動を展開するための総務・庶務・会計・会報誌等の係、都の理事、支部長・評議員は全て大事な役どころであり、本部役員・理事、委員会の各委員も大切なお役目である。

どの役も皆、東京都退職校長会のお世話役である。会員のためのお役に立てるのが生きがいでもある。

○上杉鷹山のことば

『やって見せて
言って聞かせて
させて見て
褒めてやらねば
人は動かじ』

○誰に見せたい今の姿

―いきいき人生　豊かな心で―

日々を送る自分を誰に見せるか、いや、見せようとしているのか。揺れる傘寿の傘の内。

○お知らせ

十月十三日、関東甲信越地区退職校長会連絡協議会討議資料として、多田丈夫会長から次のような提案がなされた。

『存在感ある退職校長会を目指して』―会員の交流活動と社会貢献活動の推進―

詳細は、後日のお知らせとして文の終わりとします。

主な記事

P1　巻頭言　副会長挨拶
P2　五団体との教育懇談会
P3　トピックス①
P4　平成28年度『第２回会員研修会』のご案内
P5　業務改善・基金検討委員会から 報告（３）
P6　『第一回人材バンク登録者対象講座』
P8　支部だより
P10　平成28年度「採用前実践的指導力養成講座」全体計画
P11　高齢者叙勲受章会員、応募コーナー　トピックス②
P12　新入会員の声
P14　クラブ紹介
P15　湯島の動静
P16　物故者、編集後記

五団体との教育懇談会

日時　平成二十八年八月二十七日（土）
会場　退公連鈴木共同ビル・3階（会議室）

今年度の「五団体（公立園長校長会）」の代表の方々との「教育懇談会」は、本会事務局のある「退公連鈴木共同ビル」3階「会議室」にて、開催された。

司会　東京都退職校長会
副会長　宇津木順一

◇　**公立幼稚園・こども園**

東京都国公立幼稚園・こども園長会　副会長　山形美津子

○　園数は、百八十四園（内、十園が休園中）。

○　園児数　一万四千六十四名在籍。特に、三歳児が増加傾向にある。

○　経験年数が八年未満の教員が六十八％を占め、一段と若返っている。若い教員の資質・能力の向上が重要な課題である。

○　十一月十八日に「関東甲信越国公立幼稚園・こども園長研究協議会・東京大会」を「ホテル・グランドアーク半蔵門」にて開催する。

○「輝く未来に夢をもち、たくましく生きるこどもたち」をテーマに、研究を深める。

○　幼児教育に関する国の動きとしては、幼稚園教育要領等の改訂「非認知能力」の育成幼児教育の無償化・義務教育化の検討などがある。

◇　**公立小学校**

東京都公立小学校長会
副会長　後藤良秀

○　子供と向き合う時間の確保。
・三十五人学級の実現。
・標準法改正への取組み。

○　副校長受験者の発掘。
・C選考受験者や女性受験者を増やす。

○　新規採用教員の大量採用への対応と学校の課題。
・東京都退職校長会による「採用前実践的指導力養成講座」による人材育成の充実。
・産育代替教員の不足や経験の浅い教員の割合の高さ。

○　新教育課程への準備と対応。
・英語専科教員の配置。
・SCの常駐化やSSWの配置等。「チーム学校」の実現。
・英語科時数確保のためのカリキュラム・マネージメント。

○　特別支援教室の設置と専門性の高い教員の確保。

○　第六十八回関東甲信越地区小学校長研究協議会の開催報告。

◇　**公立中学校**

東京都中学校長会
会長　常盤　隆

○　各教育団体との情報交換等を実施するとともに東京都教育庁人事部・指導部との連絡会を年に数回行っている。

○　次年度十月、七十年記念東京大会が開催される。現在そのための準備を会員の協力により、進めている。

○　現在、中学校教育の課題として、次のことがあり、会員相互の連携、協力のもとに取り組んでいる。

①　学力向上の取り組みの一つとして「東京方式　少人数、習熟度別指導ガイドライン」による数学・英語での教員加配があり、きめ細かな指導に取り組んでいる。

②　生徒指導上の課題としてＳＮＳを巡る諸問題が発生していることから「ＳＮＳ東京ルール」を踏まえ、各学校では「ＳＮＳルール」を策定するなど対策を講じている。

③　人事上の大きな問題として、副校長の未配置校が出現することが懸念されている。このことから、教育管理職の育成に力を注いでいる。

◇　**公立高等学校**

東京都公立高等学校長協会
副会長　小宮山英明

中教審の高大一体改革を受け、文科省が打ち出す基礎学力試験、大学接続試験の試行、及び学習指導要領の改訂への対応が喫緊の課題です。この対象となる生徒は次年度入学してきます。「生徒に教える」から「生徒が学ぶ」への指導方法の大転換とともに、「何ができるようになるか」を卒業生像に反映させることも高校には求められます。

教科指導にはアクティブラーニングの導入が、生活指導や教育相談、部活動に外部の教育力のさらなる活用が始まります。外部と連携したチームとしての学校の在り方は都でも検討されています。

発達障害、不登校、貧困など複雑化、多様化し悪化している課題の解決には、専門的な知識を持つ外部人材との協働でこそ効果がでます。学力の習熟の差を埋めるのは学び直し支援であり、退職した先生方のご助力を賜ることになります。よろしくご協力ください。

各校種の代表からは、貴重な資料が用意され、それぞれ校種の本年度の方針、内容、喫緊の課題等が克明に報告された。よくよく考えると東京都退職校長会と五団体とは「運命共同体」の関係にある。これまでの各校種間の従来からの関係を発展的に改善し、横断的、縦断的関係に大転換することで、例えば、入会促進をはじめとする切実な課題解決への新たな関係を構築していきたいとの思いを強くした意義ある会であった。

トピックス①　支部会員の声から

品川支部会報「私の宝物論」第一三九号（平成二八年七月）より

徳永　裕人

人は生まれて、生きて、死ぬ。その死も視野に入ってきました。私の宝物は、この今、生きていることかな、と思います。

桂林　和子

数ある宝物の中に2枚の写真がある。全国女性校長会代表の方と東宮御所において雅子妃殿下に接見した一枚である。お声をかけられた時の貴重なものである。気品あふれる美しいお姿が忘れられない。

もう一枚は、故島倉千代子さんと撮ったもの。翌日いただいたお礼の電話のお声も無形だが貴重な宝物である。

中川　廣子（一枚の着物）

母が、まゆから糸をつむぎ、高機で織り、型打ちし、縫ってくれた着物。鮮やかなピンクに花鳥風月の総模様、友人の結婚式に着ただけでタンスに眠っている。処分できない私の宝物。

平成 28 年度『第2回　会員研修会』のご案内

東京都退職校長会　生涯学習部

平成 28 年度第 2 回『会員研修会』を下記の要項で実施いたします。
多数のご参加をお待ちしております。

◎ 期　日　平成 28 年 11 月 21 日（月）
◎ 時　間　受　付　　午後 1 時 30 分～ 2 時
　　研修会　　午後 2 時～ 4 時 30 分
◎ 会　場　〖北とぴあ〗9 階（907 号室）
　　JR 王子駅 北口 徒歩 5 分　電話 03(5390)1100

生き生き人生　元気の出る集い

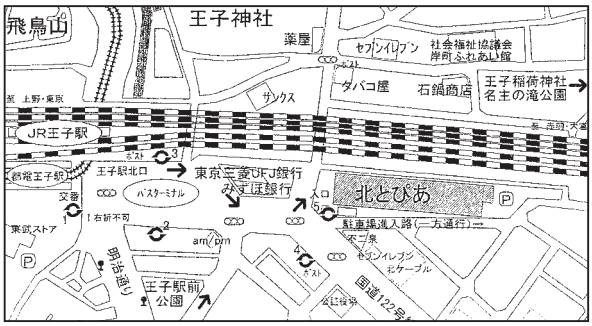
―支部による教育支援活動（文化的活動）―

発表支部

千代田中央　『地名から学ぶ中央区の歴史』
　　発表者　鈴木　正孝

北多摩中部　『製本クラブの活動とブックカバー(文庫本用)作り』
　　発表者　鎌田　敏雄　　保泉　亜弥子

八王子　　『八王子支部のクラブ活動』
　　発表者　渡辺　和則



北とぴあ
Hoku Topia

〒114 東京都北区王子1丁目11番1号
代表電話03－5390－1100
予約受付03－5390－1105

JR京浜東北線王子駅北口　徒歩2分
営団地下鉄南北線王子駅　5番出口直通
都電荒川線王子駅前下車　徒歩2分

第一回会員研修会に引き続き第二回会員研修会も支部による教育支援活動を発表していただく研修会にいたしました。今回は、歴史散歩等のクラブ活動・サークル活動などの文化的活動を発表していただきます。

会報一八七号「支部の活動」を参考にして、十五支部に発表を依頼いたしました。

上記、三支部とも、素晴らしい実践をされています。

多数のご参加をお待ちしております。

業務改善・基金検討委員会から 報告(3)

委員長　宇津木順一

本委員会では、七月に中間報告をまとめ、会長に提出するとともに、七月二十五日の支部長会で、その一部を資料として配付した。現在、検討結果に基づいて会則の改正について検討している。十月中には報告書（答申）とともに、会則改正案を提出したいと考えている。

報告（1）では、会則について、業務改善の視点から見直し検討した内容を報告した。

報告（2）では、基金と今後の用途など、会則に付随する内規について検討結果を報告した。

ここでは、残る諮問事項「会員減少に伴う支部組織の在り方について」及び、「その他、緊急を要する事項」についての検討結果を報告する。

○会員減少に伴う支部組織の在り方について

昭和三十二年に最初の支部が結成された後、次々と支部が結成され、現在四十三支部が活動している。支部にはそれぞれ独自の結成の精神とともに、伝統に基づく組織運営体制がある。会員減少に伴う今後の支部組織の在り方については、基本的には各支部の主体的な取組により改革を進める必要がある。

支部によっては、会員減少による役員選出の困難さに直面する中、支部の将来を見通して、役員構成のスリム化を図るなど、組織改革を進めているところもある。情報交換を図りながら、各支部の実情に即した支部独自の見直しが必要である。

特に、入会を促し退会を防ぐには、支部活動を盛り上げるとともに、今後、研修やクラブ活動などを中心に、支部間の交流を活発にする必要がある。そのための情報提供等、本部がその仲介役を果たし、将来的には、会員は、どの支部の活動にも自由に参加できるような条件整備が必要である。また、支部組織内に、新入会員勧誘のための組織を作り、会員確保の体制を充実させる必要がある。

○その他、緊急を要する事項

緊急を要する事項として、最大の課題は会員減少の問題である。会員の高齢化と新入会員の減により、この十年間では、年一〇〇名を超える多数の会員減になっている。併せて、会員減に伴う会費収入減の問題がある。現在、会費収入のほかに寄付金等を充てて会を運営しているが、事業を精選し運営費を削減して財政の健全化を図ることが緊急を要する課題である。このことから、会員の確保と事業の精選、財政の健全化を緊急を要する課題ととらえ検討した。

会員の確保については、支部、本部が連携協力し、取組の充実を一層図る必要がある。都教委からの委託事業の推進は教育支援活動として、会員意識を高め、会員の増強につながっている。本部では都教委との連携強化に努め事業の推進に努める必要がある。また、本部、支部共に、現職校長との交流を一層図り、退職校長会についての理解を深めて貰うような取組が必要である。

本部の役割の明確化と事業の精選については、本部でなければ実施できない事業、本部で行うべき事業という観点から本部の事業を明確にし、会議の簡素化や回数の削減など事業の精選を検討した。

財政の健全化については、会の性格を踏まえて、計画的、段階的に会員の会費のみで運営するような体制に改めるよう提起した。

本年八月までに十四回の会を重ね真剣な検討を進めてきたが、会員の支部所属の問題など、解決策が難しい問題もある。また、会員確保の観点から、新しい会員制度の導入も検討課題になっている。

これらのことも踏まえた答申になると考えている。

『第一回　人材バンク登録者対象講座』

＝人材バンク受託事業運営特別委員会・報告＝

昨年に引続き、本年度も東京都教育庁から本会に委託された「人材バンク事業」の内「第一回人材バンク登録者対象講座」が七月二十三日に開催された。

尚、この講座は、人材バンク受託事業運営特別委員会が総力を挙げて、準備を行い、都教育庁人事部と協同して運営に当たっている。

1．趣旨

この事業の趣旨は、東京都教育庁に登録した「人材バンク登録者」を対象に、学校でボランティア活動を行うに当たり、必要となる知識や学校での勤務に関する心得等を付与し、登録者の資質の向上を図るための講座として開催されるものである。

ここに当日の経過等を報告する。

2．実施内容

・日時　七月二十三日（土）

・会場　教職員研修センター

八階・八〇三研修室他

・担当者（集合時刻）九時

・受講生　四十八名

・役員（都関係）　二名

（本会関係）　十三名

・受付　十時～

・講義Ⅰ　十時三十分～

・講義Ⅱ　十時四十五分～

・演習　十一時四十五分～

3．講義Ⅰ

・全体会形式で行われ、主催者側の東京都人事部の挨拶で始まる。続いて、人材バンク事業の概要、及び「人材バンクガイドブック」による説明があり、また、テキストの紹介が行われた。

4．講義Ⅱ

・講義形式により

①まず、学校に於ける教育活動の心得について

②続いて、児童・生徒への接し方について

講義が行われた。

・講義は、小・中・高・特別支援の四校種別で行い、講師は本会の会員が担当した。

◇講義Ⅱの配慮事項

・都退職校長会が作成した「研修ノート」を受講生に受付と同時に配布して、受講生が講義内容等を記録しながら、受講できるように、より効果的な学習への配慮に努めた。

・講義は、パワーポイントを利用し、映像を通しながら、わかりやすい説明をした。

・受講生を4グループに分けて、課題別演習を実施した。

・グループ別に分けたことで受講生の状況等の実態把握に役立った。

・受講生が熱心に講座に取り組む態度がよく伝わってきた。

5．グループ別演習の状況

・グループ別は四部門とし、講義の終了後、受講生をそれぞれの会場に誘導した。

・四部門は、以下の通りである。

◇　学習1

◇　学習2

◇　部活動

◇　学習と部活動

・演習はワークショップ形式で行い、その内容は次の6にあるような順序で進められた。

6．グループ別演習

・各グループには、グループリーダーとコーディネーターを配置し、グループリーダーが司会を務め、コーディネーターは、受講生への助言等を行った。

①自己紹介（志望動機等）

②講義を聴いての感想を含めて、協議。

③コーディネーターの体験談等を交えての助言を聞く。

④受講した感想等の意見交換を行った。

⑤ワークショップの時間は、五十分を設定し、協議時間を充分取るように努めた。

⑥終了十分前に、アンケート用紙を受講生全員に配布。

⑦受講しての感想や要望等を受講生全員がアンケート用紙に記入した段階で各グループ毎に解散とした。

7．受講者のアンケートから

◇講座に参加しての回答

・ほとんどの受講生が「役に立った」と回答。この講座の実施を高く評価した。

・小・中・高・特別支援等のそれぞれの発達段階の講義が聴けて、大いに参考になった。

・児童・生徒への接し方等の心得を改めて再認識した。

・ボランティアとして経験のある方の話を聞けて、良かった。

・「特別支援児童・生徒への接し方等の話が聞きたかった」という回答があった。これは、各講義の時間配分のミスで、最後に講義した特別支援の時間が五分しかなくて、このことを聞きたかった受講生には失望だったことの表れである。このことは次回の課題である。

◇分析・考察

・「講義Ⅱ」の講義内容が受講生のニーズに合った内容であることが分かった。

・「開催時期」については好評であった。

・今後、加えて欲しい内容項目

1、ボランティア活動等の体験談。

2、教育課題とその対応策。

3、学校の教育活動についての基本的な知識。

（文責・和田　弘）

支部だより

杉並支部の現状と対策

杉並支部長　井口　茂

Ⅰ　杉並区には三つの退職会があります。平成二十八年度の概要を紹介します。

1、まず、東京都退職校長会杉並支部は会員数一〇五名、年会費は三千五百円。その内、杉並支部分は千三百円。予算十七万九千円。来年度創立五〇年を迎えます。

2、「愛杉会」は杉並区に勤務した管理職で、会員数百四十五名。来年度、創立五〇周年を迎えます。

3、三つ目、東京都退職公務員連盟杉並支部は、会員数百十五名。年会費は三千五百円。創立六五周年を迎えます。

それぞれが独自の活動をしていますが、予算面で比べますと我が会1に対し、愛杉会二・四三倍、退公連一・六八倍となり、東京都退職校長会の窮状が分かります。

Ⅱ　窮状対策としては苦渋の選択で、見舞金を無くし、香料（五→三千円）白寿・米寿・喜寿（千円の図書カード）講師料（三→二千円）交通費（百円→五〇円）。4クラブの助成金（四→三万円）名鑑積立金（三万円→千円）など年々減額をしています。

Ⅲ　杉並支部の活性策としては、会員対象講演会を理事会前に設定し、平成二十二年十二月から開催。演題は「菊の育て方」、「俳句」、「加齢と健康」、「杉並区の教育、「井草の歴史」、「小・中学校の教育」、「教員免許更新制」、「日本の伝統と文化」、「英語教育」など。

Ⅳ　クラブ等の推移では、昭和四十九年に会報一号を発行。また、囲碁、散歩、園芸、釣りのクラブが発足。五十五年には俳句クラブが開設。

◇昭和六十二年度支部会員数（三百二十四名）。新会員数（十二名）。クラブ員数は散歩（四十三名）、囲碁（二十六名）、園芸（四十七名）、俳句（十三名）。

平成二年度には最大会員数三百三十三名、新入会員一九名となりました。

◇平成二十八年度会員数（百五名）新会員（〇名）。クラブ員数は散歩（五名）、囲碁（八名）、園芸（八名）、俳句（五名）となっています。

Ⅴ　今後の展望　このような経緯の中、今後は以下の取組みが必要と考えます。

1、入会しても何もできないと思い、入会を遠慮している方への入会方策の検討と勧誘。

2、再任用制度における「退職校長会入会への方策」の検討と働きかけ。

3、管理職を目指す教員の激減防止策検討と提言。

4、三歳の壁（小学校三年生までの学習でのつまずき）の実態解明とその支援（寺子屋）。

5、会員の高齢化とその対策（生き生き元気、物忘れ防止策、成年後見制度など）。このような取組みで、会の充実・発展が図れればと考えます。

わが支部の特徴「狛晁（はくちょう）」

狛江支部長　松崎　正勝

狛江支部の特徴は、何といっても文集「狛晁（はくちょう）」である。本年で22号を数える。「狛晁」の文字は狛江の狛で、晁は朝の古字で「あさ」、「あした」を表している。即ち、未来に向って限りなく前進、発展して行くことを意味している。

会員の約半数が文集に投稿し、あらゆるテーマで書かれているので、読みごたえがあると自負している。総会時の来賓の方々にはなかなか好評である。

会員の手づくりで、広報担当が中心になってパソコンで打ち、公民館の印刷室で印刷し、製本を役員・有志で行い、会員に配布している。

今後も継続して発行し、狛江支部の宝としていきたい。

後輩や教育関係者が読んでも参考となる面が沢山あると思う。

次に作品展は、本年で第八回目になる。公民館の展示場を借りて約二週間実施している。

できるだけ総会がある五月中に開催できるようにしている。

総会に出席される来賓の方々も作品展が同時にあることを楽しみにされている。

内容は、手工芸、書写、水彩画、木工、写真、陶器と多くの部門にわたっている。特に「能面」を中心に展示方法を工夫して、鑑賞される一般市民の方にも分かるようにしている。

新年会については、例年一月最終の日曜日に設定してある。

作品展

場所も大体、三年間は、同じ場所で行っている。

前半のセレモニーが終わり、後半は、以前はビンゴゲームを行い各自が五百円程度のプレゼントを用意して何が当たるか楽しみにしていたが、時間がかかるので止めることにした。

現在は、懇談の時間を長くして親睦を深めている。

余興として、詩吟のサークルの発表、マジック、歌等で楽しんでいる。

以前は、尺八の音色に合わせて歌ったのがなつかしい。

新年会

協力・結束が支部の伝統

西多摩支部長　宇津木　順一

西多摩支部は東京都の西端に位置し、奥多摩渓谷で知られる多摩川沿いの奥多摩町、青梅市、羽村市、福生市、瑞穂町、秋川渓谷でなじみの秋川沿いの檜原村、あきる野市、日の出町の四市三町一村が支部の地域です。

会員数は、現在、二百二十三名で、その大多数は、支部内に居住し、支部外（B会員）は、数名です。また、交通事情もあり、支部内の学校に勤務していた会員が多いと思われます。人間関係が密で、協力し、結束して活動する伝統を大切にしています。

広い地域の支部ですが、会員は地区ごとに組に編成されています。各組に役員(理事)を置き、役員が会報や行事の案内、役員会（理事会）の資料などを個別に訪問して、配布連絡し、会費の集金もしています。役員と会員との日常的な顔を合わせてのふれあいがあり、人間的なつながりを深めています。このような役員の働きが支部の組織運営の要になり、支部組織を支えています。

支部活動としては、会報「西多摩」を年三回発行しています。昨年百号に達し、記念座談会を行いました。「関心をもたれ、喜んで読まれ、参加して貰える広報紙」を目指し、支部の活動を伝えるとともに、最近の会報では「戦後七十年に寄せて」「私の健康法」「今を生きる」「連載コラム　旅の花、庭の花」など土地柄を生かした独自の紙面を工夫しています。多くの会員が寄稿し、親しまれています。

研修事業では、会員が講師になっての講演会や一日研修を行っています。講演会では「和紙生産と軍道紙（ぐんどうがみ）」「はがきスケッチの旅」「青梅にあったミイラのはなし」などが最近のテーマでした。会員が、永年にわたる

研究調査や趣味などで積み重ねた成果を発表し、地域について理解を深めるとともに生き方について、互いに学んでいます。

一日研修では、数年前、横田基地内のアメリカンスクールを研修視察しました。英語に堪能な先生に通訳をお願いし、小・中学校を見学しましたが、国内で、アメリカの学校教育の実情を間近に見て、目が開かれたような印象深い研修でした。従前は、支部内を中心に実施していましたが、最近では、秩父や群馬方面など、遠出もしています。

教育支援については、「各学校へ支援する会員の一覧表」を作成し、地教委と支部内の全校に届けて、支援体制をつくりましたが、都の人材バンク事業と重なり、現在、活用は限られている状況です。

趣味や特技を通した会員同士の活動や現職校長との交流を深める活動が、今、課題になっています。

平成二十八年度「採用前実践的指導力養成講座」全体計画

―採用前研修事業受託委員会―

◎目的

採用後、教員としての職務を円滑にできるように、学級経営等に必要な実践的指導力を身につける。

◎本年度の日程

一、全体日程

（1）事前説明会

① 第一回
平成28年11月24日（木）

② 第二回
平成28年11月25日（金）
いずれも午後3時より
東京都教職員研修センター

二、講座日程

☆Aコース（3日間）

① 12月11日（日）全体講座
（講義・演習）午前10時より
帝京平成大学冲永記念ホール

② 12月15日（木）学校体験
（授業参観等）午前8時30分
より・都内公立学校

③ 12月16日（金）学校体験
（授業参観等）午前8時30分
より・都内公立学校

☆Cコース（2日間）

① 12月18日（日）全体講座
（講義・演習）午前10時より
帝京平成大学冲永記念ホール

② 12月19日（月）学校体験
（授業参観等）午前8時30分
より・都内公立学校

☆Bコース（3日間）

平成29年

① 1月15日（日）全体講座
（講義・演習）午前10時より
帝京平成大学冲永記念ホール

② 1月16日（月）学校体験
（授業参観等）午前8時30分
より・都内公立学校

③ 1月17日（火）学校体験
（授業参観等）午前8時30分
より・都内公立学校

三、事前訪問計画

① 講師が協力校の校長と直接連絡を取り、日程調整をして事前訪問をする。

② 各コースとも、事前訪問は12月1日より実施予定。

※昨年度との大きな変更点はA・Bコースの全体講座が一日となったことである。

◎本年度の本部組織

・委員長　多田丈夫
・小学校　桑原利夫、藤井誠一
　阿久津州美男
　塚野征
・中学校　宇津木順一、前田烈
　工藤豊太
・高等学校　平島満、天沼照夫
　澤海富保
・特別支援校　落合勇
　大南英明、小林進
・事務局長　三辻陽夫

高齢者叙勲受章会員

栄えのご受章お祝い申し上げます。　計５名（敬称略）

（平成 28 年 10 月 5 日までに支部より届出のあった方々）

瑞宝双光章　５名

和田　民雄（武蔵野・三鷹）　相田新太郎（練馬）　根本　勇（埼玉）　津田　隆（練馬）　廣瀬　昭江（茨城）

高齢者叙勲について

高齢者叙勲〈米寿叙勲〉について、改めてお知らせします。

近年、各区市町村の教育委員会が本人からの申請がなくても都道府県教育委員会に申請する仕組みになっています。

しかし、

①叙勲候補者リストへ候補者の登録が漏れていた。

②登録はされていたが推薦漏れ。

③候補リストに登録はされていたが、候補者が死亡との誤認による推薦漏れ。

④八十八歳の間であればいつでも推薦が可能なものとの認識等々による推薦漏れも考えられる。八十七歳になられたら該当者は遺漏のないよう、改めてご自身で確認をお願いします。

【高齢者叙勲の概要】

①春秋叙勲で叙勲されていない功労者のうち、満八十八歳になった方を「春秋叙勲」とは別に叙勲するものです。

②内閣総理大臣決済で毎月末の閣議で決定します。

③翌月一日付けをもって発令します。

④発令日〈一日〉迄に八十八歳となる者を対象とします。

【留意事項】

①八十八歳の誕生日が過ぎないように手続きを進めることです。

②提出期限を過ぎた場合は叙勲の対象とならないばかりか、以後は「死亡叙勲」の対象からも外れます。

※叙勲希望者は、満八十八歳の誕生日の六ヶ月前までに最終勤務校か当該区市町村教育委員会の庶務課に相談してください。

※最終勤務校が統廃合の場合は教育委員会に相談してください。

※教育委員会が叙勲の名簿作りのため、届出住所に確認連絡を行ったが、連絡が取れない例が多々あるようです。

※転居等の場合は必ず、当該区市町村教育委員会に連絡することが大切です。

応募コーナー

短歌

安らかに苦しみのなき母の顔
眠るがごとく両の掌組みて
母の辺に夜静々と深みゆく
今宵限りの枕つとめす
かすかなる風音聞きつつ母といる
一夜守りつつ刻の経りゆく

中野支部　田中弘志

嬰児（みどりご）をかき抱きし若きパパ
ゆめ落とすまじゆめ転ぶまじ
三日月をバナナの月よと
言いし吾娘
バージンロードそを今歩みつつ
愛（は）しきやし花は乙女の逝き給う
千言万語の蕾しままに

友人は、学生の孫娘を早世

府中支部　和知光儀

トピックス②　支部会員の声から

武蔵野・三鷹支部会報第二四号（平成二八年二月）より

寺崎　秋光　昭、60、3

去る5月、ある同級会に呼ばれた。もう60年も昔の教え子たちで初老期を迎えているが昔の面影が残っていて懐かしい。私が90歳を迎えたと聞き「来年もまた集まりますからぜひ会いたい」と励ましてくれた。嬉しくて胸が熱くなった。その頃、若年教師で夢中ではあったが、この気持ちに値する教育活動ができていただろうかと汗する思いであった。ありがとう、嬉しいよの心に尽きる一時であった。

宇根　忠廣　昭、62、3

今まで『会員だより』に何を書いたのかなと思って創刊号を見たら、なんと編集委員に私の名があった。あれから23号まで毎回寄稿していた。当時からの知人の名を見ていると故人も多く、懐かしくもあり寂しくもあり、時を忘れて半日読み耽った。当時113名の寄稿があり寄稿率は79％だった。作品展の参観者は500名とある。私は20年間の地区委員の歩みを思い出し、自分史を読んでいるようだった。

新入会員の声

よろしくお願いします

町田支部　吉田　仁

昭和五十年四月、世田谷区立桜小学校で教員生活をスタートしました。その後、町田市立大蔵小学校、狛江市立第五小学校を経て、世田谷区立松丘小学校に異動しました。以降、世田谷区内の小学校で管理職として勤務してきました。平成二十四年三月定年退職を迎えましたが、そのまま世田谷区立桜丘小学校で再任用校長として勤務させていただきました。そして平成二十八年三月、四十一年間の教職生活に終止符を打ちました。

この四月からは、週五日のスポーツジム通いを目指し、それを生活のリズム作りとして活用しています。

最近、やりたいことは元気なうちに今やらなくては、五年後、十年後には絶対できなくなっているだろうなと考え、スキューバダイビングに挑戦し始めました。双子の孫と一緒に海に潜ることを夢見て、Cライセンス取得に向けて頑張っています。

長い教職生活を振り返ると諸先輩の皆様にお世話になったり、ご指導いただいたりしたことが思い出されます。

ありがとうございました。

今後ともよろしくお願いいたします。

～素晴らしき出会いに感謝～

調布支部　木野村　雅子

退職して半年が過ぎ、「肩の荷がおりるということはこういうことなんだ」とつくづく実感しています。過ぎてみればあっという間でしたが、その長き道のり、先輩方に見守られ、仲間たちに支えられ、喜びを味わいながら過ごせたことは本当に幸せでした。

中学校音楽科教員として赴任した初任校は校舎改築のため音楽室は図書室と家庭科室を間借り。その上、生活指導困難校ということもあり、萎えそうになることもありましたが、仲間たちと飲み、語らい、気もほぐれた記憶が蘇ります。そのような環境の中で、授業で子どもたちを惹きつける大切さを学び、それは最後まで身体に染みついた教訓でもありました。

二校目もなかなか活発な学校でした。そのパワーをプラス方向にとばかり、一校目の経験を生かせた音楽科の授業。合唱にミュージカル、吹奏楽、委員会活動他、子どもたちと共に過ごし、教えられることが多々ありました。

また、研究に勤しんだ時期でもありました。教科の他、特別活動、教育相談、特別支援教育など、領域の研究を深める機会を得たことは、後の学校経営にとても役立ちました。共に研究に励んだ先生方や先輩方のご指導あってこそと痛感しています。

そして、三校目からは教頭・副校長・校長と学校の舵取り役となり、緊張の連続でしたが、どの学校でも新たな出会いと素晴らしい仲間に恵まれました。特に、都新聞教育研究会長の上司と共に歩み、新聞教育をご指導いただいたお陰で、全国の先生方との繋がりが出来、世界がグンと広がったことは、大きな糧となっています。

素晴らしい仲間や様々な領域へ挑戦させてくださった皆様との出会いにひたすら「感謝」の三十八年間でした。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

被災地釜石小学校での訪問授業（2013年６月）

充実した教員生活と出会いに感謝

三鷹・武蔵野支部　松平　昭二

江戸川区で保健体育科の教諭としてスタートを切り、その後は世田谷区の中学校で勤務しました。途中、シカゴ日本人学校の校長としての貴重な体験もできました。この間、素晴らしい生徒たち、保護者・地域の皆様、そして同僚の教職員との出会いに、ただ、感謝、感謝です。

あっという間の34年間でした。思い出はたくさんありますが、校長として朝会等で話をした時の生徒の反応と彼らの感想を聞くのが楽しみでした。「校長先生の今日の話、あまり面白くなかった。長すぎます」「今日の話は心にジーンときました」等々…。

生徒は、心の話が好きでした。決して、今どきの生徒が「心離れ」しているわけではありません。難しいことではありましたが、生徒に正面から向かい合って心の話をしました。また、今どきの生徒の問題として「知離れ」が指摘されています。でも、目の前の生徒は、知ることにワクワクしていました。もし「知離れ」が本当だとしたら、むしろ「世の中のことは、みな、わかっている」といった押し付けがましい知の提示の仕方にこそ、問題があるのではないでしょうか。世の中には、わからないことがたくさんある、わからないことばかりだ、という知の提示の仕方こそ、生徒の好奇心を触発します。だから、私は「なぜだろう」「どうしてだろう」と、生徒たちに知ることの楽しさを味わってほしいと願い、朝会での話題を考えました。「なぜ」が沸いてきたとき、その「なぜ」をどう調べ、何がわかったか。すなわち、「わからなければ、調べればよい」ということを伝えたくて話したのを懐かしく思い出します。

4月より、母校の日本体育大学に勤務し、保健体育科教員を目指す学生を相手に日々奮闘しています。教壇に立つのは18年ぶりでしたが、学生相手の授業を楽しんでいます。これからも、新たな人との出会いを大切に、そして楽しみにしながら仕事をしていきたいと思います。会員の仲間としてもどうぞよろしくお願いします。

「楽しかった四十三年間」これからよろしくお願いいたします！

世田谷支部　豊島　修二

子どもたち・保護者・地域の方々、そして教職員に恵まれ、多くの支援を受けながら四十三年間（再任用五年間を含む）の教員生活を、目黒区立第十一中学校を最後に、無事終了することができました。振り返ると、様々なことが昨日の様に想い出され、「あっと」いう間の四十三年間でした。

若い頃は、部活に明け暮れ、無我夢中で生徒の中に入って行きました。二校目で世田谷区に異動になり、体育の教師としての勉強をさせていただきました。新規採用からの二十年間は先輩の先生方からの指導を受け、現在があったのだと思います。

その時その時は必死になっていたのでしょうが、今思うと「あーすればよかったのかな、こーすれば子どもたちは納得したのだろうか」と、一人でニンマリと振り返っております。

どういう訳か、私が担任していた学年は、クラス会ではなく、同期会を開催することが多くあります。年齢とともに「声」がかかる機会が増えてきました。昔話をする機会が多く、冷や汗をかいたり、自慢げに鼻を高くしたり、改めて教員でよかったと実感しています。

地域や学校の異動に伴い、大人や子ども、多くの方々との出会いは、新しい発見が沢山ありました。

二十一年間お世話になり、住まいのあるこの世田谷区に、退職とともに戻ってくることができましたので、先輩の方々のご指導を受けながら「退職校長会」に参加したいと思いますのでよろしくお願いします。

＜同好の仲間と楽しく過ごしませんか＞

クラブ紹介

＝ 入会を歓迎します　ご希望の方は委員長までご連絡ください ＝

囲碁クラブ

●委員長　立谷　博美（電話：03-6761-2070）
●会　　場　ナーベル（お茶ノ水）
●大　　会　年２回（６月、11月）
●錬成会　毎月第一月曜日（休日のときは次週）御茶ノ水ナーベルにて
●会　　費　年間1,000円、参加費500円

写真クラブ（T・K・C）

●委員長　小阪　順二（電話：03-3364-3237）
●撮影会　年８回（バス１泊撮影会１回を含む）
●写真展　年２回（なかのＺＥＲＯで開催）
●研究会　年２回講師による講評・自評会（作品研究と撮影技術研究）
●懇親会　写真展のオープニング・パーティー
●会　　費　年3,000円

園芸クラブ

●委員長　天野　正忠（電話：03-3752-3810）
●会　　場　新宿区立環境学習情報センター（エコギャラリー新宿２階）
●活　　動　春季と秋季に年間２回の作品交換会
園芸に関する施設や教育現場の見学会
栽培に関する懇親会や栽培実習の会
●会　　合　年間５回
●会　　費　年1,000円

釣りクラブ（千代田会釣り部）

●委員長　藤本　美男(電話：042-375-0548)
●釣り場　金沢八景、江ノ島、横浜・浦安の各港から東京湾・相模湾へ
●釣り物　シロギス・アジ・イサキ等
●会　　合　年７回の釣り例会
●特別会　年２回の１泊釣り会
●釣り大会　年１回のアジ釣り大会
●懇親会　研究・懇談会。新入会員歓迎釣り会
●会　　報　年５回発行
●会　　費　年2,500円

絵画クラブ（水墨みすみ会）

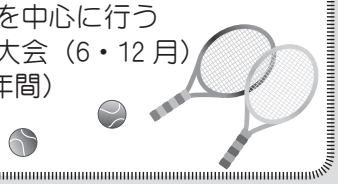
●委員長　東條　康永（電話：048-873-5727）
●会　　場　駒込地域創造館
●会　　合　月１回（８月は休み、春と秋に都内公園等でスケッチ会を実施）
●学習内容　水墨画・基本技法の学習
●方　　法　課題を設けて、作品に取り組む
●作品展　毎年開催（新宿エコギャラリー）
●講　　師　なし（会員相互の連携による）
●会　　費　年10,000円
通信会費　年2,000円

短歌クラブ

●委員長　五味田　稔（電話：0284-42-0190）
●会　　場　東京都退職校長会事務局（地下鉄千代田線湯島駅徒歩５分）
●会　　合　原則として、毎月第２金曜日（８月を除く）
●方　　法　短歌二首提出
互評と講師による指導
●講　　師　岡崎　洋次郎　先生
●会　　費　月1,000円（必要に応じ）

ソフトテニスクラブ

●委員長　小野　忠（電話：03-3311-0774）
●会　　場　杉並区営松ノ木テニス①②コート
① JR高円寺駅南口を出て右へ10m、永福町行きバスに乗車
②井ノ頭線永福町駅北口を出て井ノ頭通りを渡り左へ10m、高円寺駅行バスに乗車
①、②共に、途中の都立和田堀公園下車、北へ徒歩３分
●練習日　各月４回行い、１～２か月前に通知する
●練　　習　毎回ゲームを中心に行う
年２回部内大会（6・12月）
●会　　費　3,000円（年間）



湯島の動静

8月

2　生涯学習部会
〃　福利厚生部会
3　会計部会
4　人材バンク委員会⑥
8　業務改善委員会
9　企画委員会
12　〔短歌クラブ〕
22　正副会長会
23　会計部会
〃　会報部会
25　人材バンク委員会⑦
27　五団体教育懇談会

9月

6　正副会長会
〃　福利厚生部会
7　人材バンク委員会⑧
〃　総務部会
9　〔短歌クラブ〕
12　企画委員会
〃　顧問・参与会
14　生涯学習部会
16　業務改善委員会
21　会報部会
24　《第2回人材バンク登録者講習会
　会場＝都教職員研修センター》
26　正副会長会
27　会計部会
28　会報部会

10月

3　企画委員会
4　福利厚生部会
5　会報部会
11　生涯学習部会
12　会報部会
〃　人材バンク委員会⑨
13～14　《関東ブロック・群馬大会
　会場＝前橋ホテル》
14　〔短歌クラブ〕
17　会計部会
19　正副会長会
〃　総務部会
24　第2回支部長会
31　人材バンク委員会⑩

東京都退職校長会会員の皆様へ

昭和51年4月に東京都退職校長会の会員の皆様の福利厚生の一環として団体契約を頂戴しております。会員ご本人様はもとより、ご家族、ご親戚の方々もご利用いただけます。

事前相談
どんなに些細と思われることでもお気軽に

ご葬儀
寝台自動車、火葬場式場、供花・枕花のお手配

ご法事、葬儀後のお手続き

家族葬から音楽葬など、あらゆるご葬儀を承っております。
年中無休・24時間体制、どのようなことでもご相談ください。

フリーダイヤル 0120-849544 をご利用ください。

経済産業大臣許可（五）第3066号
株式会社 東京都民互助会
東京都民互助会 検索
http://www.tomin-gojyo.co.jp
〒167-0042 東京都杉並区西荻北5-1-8　TEL.03-3396-7231　FAX.03-3395-8874

（平成28年9月届出現在）

物故者

謹んでご逝去を悼み
ご冥福をお祈り申し上げます

氏名	年月日	支部名	校種	年齢	頁
高畑　悟朗	26・8・21	埼玉	小	77	122
瑞秀　政裕	27・11・2	大田	小	85	13
田中　謙爾	27・12・10	大田	中	84	12
小堤　松男	28・1・4	調布	中	83	91
長井石太郎	28・2・	府中	高	91	89
神戸　敏夫	28・5・6	練馬	小	88	44
中島　源房	28・5・7	北多摩中	中	92	83
本木　治喜	28・5・10	北多摩中	小	93	82
吉澤　正治	28・6・2	足立	高	90	47
大数見　仁	28・6・15	練馬	小	62	平27
花井　健次	28・6・16	八王子	小	93	57
瀬戸口敏彦	28・6・17	葛飾	小	90	52
清水　廣恒	28・6・18	江戸川	小	85	54
石川　保徳	28・6・18	豊島	小	85	31
白間　康雄	28・6・20	武蔵野・三鷹	中	88	74
宮本　光博	28・7・1	練馬	小	69	41
遠藤　純夫	28・7・2	西多摩	中	76	105
國元　泰治	28・7・3	品川	小	87	9
保坂徳太郎	28・7・5	杉並	中	98	27
遠藤　尚	28・7・12	練馬	小	88	42
山本　賢治	28・7・12	武蔵野・三鷹	小	84	74
河野　茂夫	28・7・14	世田谷	小	100	18
寺田　庄次	28・7・15	世田谷	小	90	16
高橋　晃	28・7・23	八王子	小	80	58
黒澤　孝夫	28・7・29	埼玉	小	91	125
高田　明正	28・7・31	北	小	88	33
宮田　實	28・7・31	文京	小	81	4
小山　孔仁	28・8・1	練馬	小	88	46
中原　二代	28・8・2	目黒	小	95	10
高木　信次	28・8・13	目黒	小	89	10
相馬　孝之	28・8・17	練馬	小	99	44
平川　幸治	28・8・24	神奈川	小	94	134
津田　京子	28・8・25	杉並	小	91	30
諸留　敏男	28・8・27	北多摩北	小	92	82
佐藤　次郎	28・8・28	荒川	小	93	75
遊佐　三郎	28・9・3	神奈川	小	88	135
田中　義夫	28・9・6	調布	小	90	91
中野　利榮	28・9・18	品川	中	88	9
武藤　貞子	28・9・20	練馬	小	84	42
和田　満	28・9・21	品川	小	81	9
林　重男	28・9・22	世田谷	小	87	16

お知らせ

本会のホームページを九月に更新しました。ご覧おき下さい。また、何かお気付きの点がございましたら事務局までご連絡いただければ幸いです。

お詫び

前号（一九三号）の三ページ「祝い　ご長寿」の欄で記載漏れがありました。

米寿　津田　隆（練馬）

津田隆様には大変に失礼なことをしてしまいました。心よりお詫び申し上げます。

（福利厚生部長　守屋龍男）

作品募集

短歌・俳句・川柳（ひとり三首まで）・コント（百字程度）等を葉書でお寄せください。

送り先　〒113-0034
東京都文京区湯島4-12-3
日公連ビル5F
東京都退職校長会　会報部

編集後記

リオ五輪・パラリンピックが閉幕し、凱旋パレードに感動を新たにした方が多いと思います。

本号は、第二回目となる会員研修会のご案内を載せました。クラブ紹介は一覧にして入会案内を掲載しました。皆様のご参加をお待ちしております。

また、各支部の特色ある活動と新入会員の声に、多くのページを割きました。三三〇〇余名の皆様と情報を共有して、東京都退職校長会を身近に感じていただけましたら幸いです。

作家の池波正太郎氏は「時代小説の読者は減少の一方である。長くやってきたというだけではどうにもならぬ。自分は一新人になったつもりでやって行きたい。」と、晩年になって尚、熱い思いを綴っていました。私はこの言葉に感銘を受けました。

会報部も、読むたびに新たな発見や魅力のある紙面作りに力を合わせてまいります。ご意見がありましたらお寄せください。

（角田　美枝子）